

令和8年度(2026年度)

# カリキュラム編成書

デジタルミュージック科

東北電子専門学校

# 学科概要書

## デジタルミュージック科

### 育成人材像

- ① 音楽理論に基づき、シーケンスソフトやPro Tool及びデジタル機器を用いて、多様な楽曲制作・編曲ができる。
- ② 様々な楽器の特性や演奏方法を知り、楽曲制作において表現の幅を広げるとともに、卒業ライブでは各自の役割のもとでイベントを成功に導くことができる。
- ③ CMやゲーム等、依頼者の要望に応じて、パソコンを使い楽曲制作ができる。
- ④ 各種音響機器の操作に関する知識・技術を身に付けて、MAエンジニア、録音スタジオスタッフ、コンサートスタッフなどの音響技術者として業務を遂行することができる。

### 身に付ける能力

- ① 楽譜の読み方、記号の理解、音程、調と音階、コード、調と音階とコードの関連、コード進行等の音楽理論及び、DAWソフトの操作技能を身に付け、作曲、編曲ができる。
- ② 現代音楽に欠かせない基礎楽器である鍵盤、ギター、ベース、ドラムなどの特性に関する知識を身に付ける。また基礎楽器の演奏を体験し、楽器による音量や音の広がりを確認し、楽曲制作や卒業ライブに活かすことができる。
- ③ ミキサーや波形編集ソフトを操作し、高品質の音源を記録することができる。また、PA音響機器や照明機器等を操作し、卒業ライブを演出することができる。

### 教育課程編成方針

- ① 豊かな教養と社会常識を身に付けるために、「就職対策」を各年次に配置する。
- ② 1年次は、音楽分野における基礎的知識、楽曲制作理論の基礎的知識、楽器演奏・楽曲制作アプリケーションの基本的操作能力、音響機材の操作能力を身に付けるための専門科目を配置する。また、聴音力を向上のため基礎訓練科目も配置する。
- ③ 2年次は、1年次に身に付けたアプリケーション、機材の操作法、楽曲制作の応用力を高め、音楽分野で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ④ 1年次通年で企業と連携した実習科目を配置する。

### 授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニングの他、業界企業研究を行う。
- ② 音楽分野における知識習得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習は個々及びグループワーク形式で行う。
- ③ 楽曲制作アプリケーション、スタジオ機材の操作技能を身に付けるための専門科目は実習形式で行う。各科目年間6作品程度の課題を作成し、音楽業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付ける。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した授業は、マニユプレート実習としてシンセサイザー及び楽曲制作アプリケーション上で実務に即した音色作り、音の表現の技術や知識を身に付ける。

### 目標資格

- ・MIDI検定
- ・サウンドレコーディング技術認定
- ・舞台機構調整技能士
- ・マイクロソフトオフィススペシャリスト

### 目指す職種

- ・ゲームサウンドクリエイター
- ・サウンドプログラマー
- ・MAスタッフ
- ・音響技術者
- ・作曲、編曲者
- ・楽器販売員

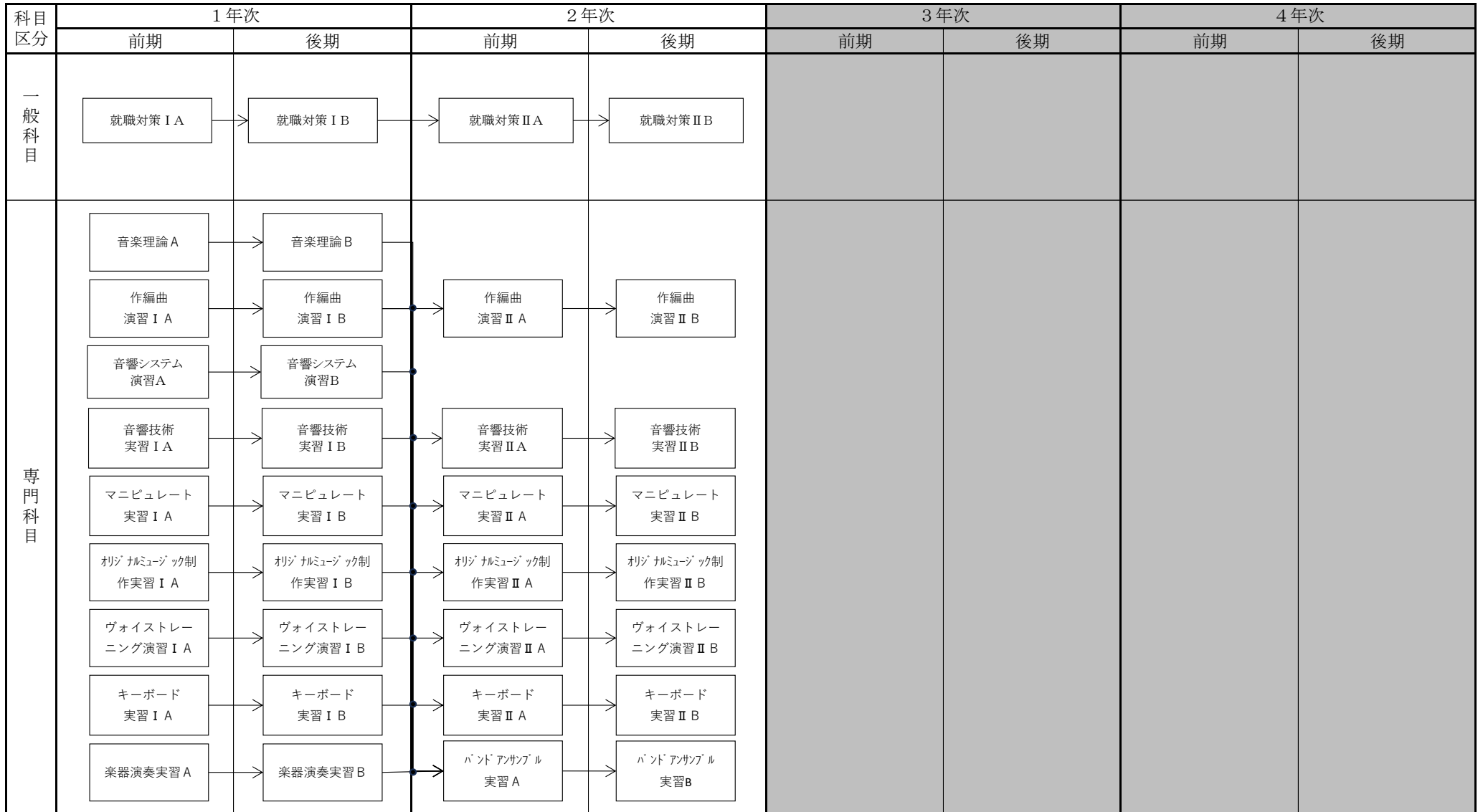
### 企業連携実習

### 業界や企業との提携／外部イベント／コンテスト等

- ・卒業生による現在携わっている音楽関係の仕事に関する技術セミナー
- ・楽器メーカーの新製品などの長期試奏

## 科目関連図

### デジタルミュージック科



デジタルミュージック科

1年

科目名	就職対策 I A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>目的: 就職活動において、各種審査・試験(書類審査、筆記試験、面接試験等)に対応できる力を身につけることにより、希望する企業への内定を獲得する。</p> <p>概要: テキストと動画視聴、ワークブックにより、書類の作成や面接対策など、就職活動で必要とされる対応力を身につける。またWebコンテンツを使用し、一般常識や適性試験対策を中心に就職活動における筆記試験対策を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動に必要な書類、特に履歴書をしっかりと完成させることができる。</li> <li>・就職活動を前提に、社会人としての常識やモラル、立ち居振る舞いを身につける。</li> <li>・面接試験においては物おじせず、自分の考えを相手に伝えることができる。</li> <li>・一般常識やSPIを繰り返すことにより、スキルの向上を図る。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト: ビジュアルで学ぶシリーズ これだけは知っておきたい! 面接対策&amp;ビジネスマナー(ウィネット)(ワークブック付属)</li> <li>・Webコンテンツ: ラインズドリルベーシック、ラインズSPI(ラインズ社)</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動は卒業後の進路を決める重要な活動であり、本授業はその礎を築くものである。就職活動を主体的に捉え、積極的に取り組むこと。</li> <li>・ラインズは授業以外の時間も使用し、積極的に進めること。</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般常識実力試験…80% ・課題小テスト…10% ・授業に取り組む姿勢…10% などを中心に総合的に評価する。</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

	テキスト・ワークブック	ラインズ
第1週	科目オリエンテーション	ラインズベーシック 数学 1.数の体系1
第2週	I. 社会人になるとは①	ラインズベーシック 数学 2.数の体系2
第3週	I. 社会人になるとは②	ラインズベーシック 数学 3.単位/組み合わせ・確率
第4週	II. 基本動作	ラインズベーシック 数学 4.量の関係・文字式・関数
第5週	III. 言葉遣い①	ラインズベーシック 数学 5.累乗・2次方程式
第6週	III. 言葉遣い②	ラインズベーシック 数学 6.図形
第7週	IV. 電話対応①	ラインズベーシック 数学 総まとめ
第8週	IV. 電話対応②/V. インターネット・電子メール利用のマナー	中間試験
第9週	I. 面接の目的①	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語(基礎)①
第10週	I. 面接の目的②	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語(基礎)②
第11週	II. 自己分析①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎)①
第12週	II. 自己分析②	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎)②
第13週	就職支援プログラム①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎)③
第14週	就職支援プログラム②	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎) 総まとめ
第15週	前期まとめ/期末試験	期末試験
	<p>※授業時間に、付属のワークブックの記入や動画の視聴も一部含む。</p> <p>※就職支援プログラムの実施時期は前後する場合がある。</p>	

科目名	就職対策 I B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>目的: 就職活動において、各種審査・試験(書類審査、筆記試験、面接試験等)に対応できる力を身につけることにより、希望する企業への内定を獲得する。</p> <p>概要: テキストと動画視聴、ワークブックにより、書類の作成や面接対策など、就職活動で必要とされる対応力を身につける。またWebコンテンツを使用し、一般常識や適性試験対策を中心に就職活動における筆記試験対策を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動に必要な書類、特に履歴書をしっかりと完成させることができる。</li> <li>・就職活動を前提に、社会人としての常識やモラル、立ち居振る舞いを身につける。</li> <li>・面接試験においては物おじせず、自分の考えを相手に伝えることができる。</li> <li>・一般常識やSPIを繰り返すことにより、スキルの向上を図る。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト: ビジュアルで学ぶシリーズ これだけは知っておきたい! 面接対策&amp;ビジネスマナー(ウイネット)(ワークブック付属)</li> <li>・Webコンテンツ: ラインズドリルベーシック、ラインズSPI(ラインズ社)</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動は卒業後の進路を決める重要な活動であり、本授業はその礎を築くものである。就職活動を主体的に捉え、積極的に取り組むこと。</li> <li>・ラインズは授業以外の時間も使用し、積極的に進めること。</li> </ul>								
成績評価の方法									

## 授業計画・授業内容

	テキスト・ワークブック	ラインズ
第1週	就職支援プログラム①	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語①
第2週	就職支援プログラム②	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語②
第3週	Ⅲ. 自己PR作成①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語①
第4週	Ⅲ. 自己PR作成②	ラインズSPI SPI演習問題 非言語②
第5週	Ⅳ. 志望動機作成①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語③
第6週	Ⅳ. 志望動機作成②	中間試験
第7週	V. エントリーシート・履歴書作成①	ラインズSPI SPI解答のテクニック 言語
第8週	V. エントリーシート・履歴書作成②	ラインズSPI SPI演習問題 言語①
第9週	Ⅵ. 企業訪問①	ラインズSPI SPI演習問題 言語②
第10週	Ⅵ. 企業訪問②	ラインズSPI SPI演習問題 言語③
第11週	Ⅶ. 面接試験①	ラインズSPI SPIマークシート
第12週	Ⅶ. 面接試験②	ラインズSPI SPIWebテストセンター
第13週	Ⅶ. 面接試験③	ラインズSPI SPIテストセンター
第14週	模擬面接	ラインズSPI 総まとめ
第15週	前期まとめ/期末試験	期末試験
	<p>※授業時間に、付属のワークブックの記入や動画の視聴も一部含む。</p> <p>※就職支援プログラムの実施時期は前後する場合がある。</p>	

科目名	オリジナルミュージック制作実習 I A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	4	総授業時間	120	単位	4
担当教員	村山 秀樹			実務経験	専門学校音楽分野において30年にわたり指導に従事。本年より講師として、長年培った教育経験と専門知識を活かし、後進の育成および実践的な指導に取り組む。				
目的/概要	<p>【目的】楽曲制作に必要な音楽理論を体系的に学び、作曲・編曲の実践を通して音楽制作や演奏、音響分野で活躍できる人材の育成を目的とします。また、音楽制作ソフトや機材の操作技術を習得し、MIDI検定取得に必要な知識と技能の修得を目指します。</p> <p>【概要】授業では、楽譜の読み方、音程、調と音階、コード、コード進行、メロディー作成などの基礎から応用までを段階的に学習します。さらに、音楽制作ソフトや機材を活用した実践的な楽曲制作を行い、反復学習を通して理解の定着と制作力の向上を図ります。</p>								
到達目標	デジタルミュージックの基礎となる音楽理論およびコンピュータミュージックの知識を理解し、音楽制作ソフトや機材を活用した楽曲制作ができる能力を身につけます。実習を通して作曲、編曲、録音までの一連の制作工程を習得し、社会的に通用する水準の作品制作が行えることを目標とします。また、MIDI検定に対応した知識を修得し、資格取得に必要な基礎力を養います。								
目標資格	MIDI検定								
前提知識	・最低限度のDTM経験が望ましいが 経験が無くても問題なし								
使用教材	・担当者作成のプリント/実習室設備								
履修上の注意	・音楽知識とDTMの融合を促す								
成績評価の方法	・定期的な課題作品の提出・・・70% ・授業への取り組み姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/音楽作成ソフトの理解/基本操作/制作環境設定
第2週	音楽作成ソフトの理解/トラック構成/MIDI入力基礎
第3週	ミキサー等機材操作/基本構造/信号の流れ
第4週	ミキサー等機材操作/ゲイン・EQ/エフェクト基礎
第5週	楽曲制作実習①/ドラム打ち込み/リズム作成
第6週	楽曲制作実習②/ベース作成/コード入力
第7週	楽曲制作実習③/メロディ作成/フレーズ構築
第8週	楽曲制作実習④/アレンジ基礎/パート構成
第9週	楽曲制作実習⑤/MIDI編集/クオンタイズ
第10週	楽曲制作実習⑥/エフェクト活用/空間処理
第11週	楽曲制作実習⑦/ミキシング基礎/音量バランス
第12週	楽曲制作実習⑧/簡易作品制作①
第13週	楽曲制作実習⑨/簡易作品制作②/修正
第14週	総合演習/楽曲仕上げ/前期まとめ
第15週	期末試験
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	オリジナルミュージック制作実習 I B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	4	総授業時間	120	単位	4
担当教員	村山 秀樹			実務経験	専門学校音楽分野において30年にわたり指導に従事。本年より講師として、長年培った教育経験と専門知識を活かし、後進の育成および実践的な指導に取り組む。				
目的/概要	<p>【目的】楽曲制作に必要な音楽理論を体系的に学び、作曲・編曲の実践を通して音楽制作や演奏、音響分野で活躍できる人材の育成を目的とします。また、音楽制作ソフトや機材の操作技術を習得し、MIDI検定取得に必要な知識と技能の修得を目指します。</p> <p>【概要】授業では、楽譜の読み方、音程、調と音階、コード、コード進行、メロディー作成などの基礎から応用までを段階的に学習します。さらに、音楽制作ソフトや機材を活用した実践的な楽曲制作を行い、反復学習を通して理解の定着と制作力の向上を図ります。</p>								
到達目標	デジタルミュージックの基礎となる音楽理論およびコンピュータミュージックの知識を理解し、音楽制作ソフトや機材を活用した楽曲制作ができる能力を身につけます。実習を通して作曲、編曲、録音までの一連の制作工程を習得し、社会的に通用する水準の作品制作が行えることを目標とします。また、MIDI検定に対応した知識を修得し、資格取得に必要な基礎力を養います。								
目標資格	MIDI検定								
前提知識	・最低限度のDTM経験が望ましいが 経験が無くても問題なし								
使用教材	・担当者作成のプリント/実習室設備								
履修上の注意	・音楽知識とDTMの融合を促す								
成績評価の方法	・定期的な課題作品の提出・・・70% ・授業への取り組み姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/前期復習/制作環境確認
第2週	楽曲制作実習⑩/応用アレンジ/ジャンル研究
第3週	楽曲制作実習⑪/メロディ発展/コード応用
第4週	楽曲制作実習⑫/レコーディング基礎/録音
第5週	MIDI検定対策①/基礎理論/音符・拍子・テンポ
第6週	MIDI検定対策②/音程・スケール
第7週	MIDI検定対策③/コード/コード進行
第8週	MIDI検定対策④/テンション/コードスケール
第9週	MIDI検定対策⑤/総合問題演習
第10週	楽曲制作実習⑬/ミキシング応用/ダイナミクス処理
第11週	楽曲制作実習⑭/マスタリング基礎
第12週	楽曲制作実習⑮/完成作品制作①
第13週	楽曲制作実習⑯/完成作品制作②/修正
第14週	総合演習/成果発表
第15週	期末試験
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	作編曲演習 I A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】音楽理論を体系的に学び、作曲・編曲の実践を通して音楽制作や音響分野で活躍できる人材の育成を目指すとともに、MIDI検定および音楽検定の取得に必要な知識と技能の習得を目的とします。</p> <p>【概要】楽譜の読み方や音程、調と音階、コード、コード進行などの理論を段階的に学習し、メロディー作成やコード付けの実習を通して理解を深めます。反復学習により知識の定着を図り、MIDI検定対策も取り入れながら実践的な制作力を養います。</p>								
到達目標	音楽理論の基礎から応用までを理解し、その知識を活用して作曲・編曲ができる能力を身につけます。実践的な制作活動を通して、音楽制作や演奏、音響分野において職業的に通用する楽曲制作力を養います。また、MIDI検定および音楽検定に対応した知識と技能を修得し、資格取得に必要な基礎力を身につけることを目標とします。								
目標資格	MIDI検定								
前提知識	・最低限度の五線譜読解力が望ましいが 読解力が無くても問題なし								
使用教材	・音楽理論書 MIDI検定ガイド書 実習設備								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の科目との関連を重視しながら時代に後れないような 講義に十分な配慮が必要である</li> <li>・生徒各自の音楽経験知識の差をまず無くす</li> <li>・音楽体験を通じての人間性の向上(特に積極性)にも配慮する</li> </ul>								
成績評価の方法	・定期的な課題作品の提出・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/基礎理論①/楽譜の読み方・記号の理解
第2週	基礎理論②/音程の理解
第3週	調と音階①/メジャースケール
第4週	調と音階②/マイナースケール
第5週	コード①/三和音・四和音
第6週	コード②/ダイアトニックコード
第7週	調・音階とコードの関連①
第8週	調・音階とコードの関連②
第9週	テンション①/テンションノートの基礎
第10週	テンション②/テンションの活用
第11週	コード進行①/基本進行
第12週	コード進行②/パターン分析
第13週	メロディー作り①/フレーズ作成
第14週	メロディー作り②/発展・応用
第15週	期末試験
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	作編曲演習 I B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】音楽理論を体系的に学び、作曲・編曲の実践を通して音楽制作や音響分野で活躍できる人材の育成を目指すとともに、MIDI検定および音楽検定の取得に必要な知識と技能の習得を目的とします。</p> <p>【概要】楽譜の読み方や音程、調と音階、コード、コード進行などの理論を段階的に学習し、メロディー作成やコード付けの実習を通して理解を深めます。反復学習により知識の定着を図り、MIDI検定対策も取り入れながら実践的な制作力を養います。</p>								
到達目標	音楽理論の基礎から応用までを理解し、その知識を活用して作曲・編曲ができる能力を身につけます。実践的な制作活動を通して、音楽制作や演奏、音響分野において職業的に通用する楽曲制作力を養います。また、MIDI検定および音楽検定に対応した知識と技能を修得し、資格取得に必要な基礎力を身につけることを目標とします。								
目標資格	MIDI検定								
前提知識	・最低限度の五線譜読解力が望ましいが 読解力が無くても問題なし								
使用教材	・音楽理論書 MIDI検定ガイド書 実習設備								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の科目との関連を重視しながら時代に後れないような 講義に十分な配慮が必要である</li> <li>・生徒各自の音楽経験知識の差をまず無くす</li> <li>・音楽体験を通じての人間性の向上(特に積極性)にも配慮する</li> </ul>								
成績評価の方法	・定期的な課題作品の提出・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/前期復習
第2週	コード進行③/応用進行・コードパターン
第3週	コードスケール①/基礎理解
第4週	コードスケール②/応用
第5週	メロディーへのコード付け①/基本
第6週	メロディーへのコード付け②/応用
第7週	作曲実習①/メロディ+コード制作
第8週	作曲実習②/アレンジ基礎
第9週	MIDI検定対策①/基礎理論総復習
第10週	MIDI検定対策②/音程・スケール・コード
第11週	MIDI検定対策③/コード進行・テンション
第12週	作曲実習③/楽曲制作
第13週	作曲実習④/作品仕上げ
第14週	総合演習/発表・講評
第15週	期末試験
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	マニピュレート実習 I A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 アナログおよびデジタルシンセサイザーの構造や音作りの原理、操作技術を理解し、楽曲に応じた音色設計ができる能力を養うとともに、DAW環境におけるMIDI制御や音源操作の技能を習得し、実践的な音楽制作力の向上を図るものである。</p> <p>【概要】 本授業ではアナログシンセサイザーの増幅や周波数変換の仕組みから始め、デジタル機器との違いを学習するものである。さらにDAW上でのMIDIコントロールやDTM音源の調整技術を実習形式で修得し、最終的に音色制作能力を総合的に高めるものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンセサイザーの知識・技術を修得する。</li> <li>・楽器の特性、曲に合った基本音色を作成できるようにする。</li> <li>・基本楽器の自身のイメージに合った音を的確に作成できるようにする。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	・DTM/DAWソフト、音源 各種シンセサイザー								
履修上の注意	・オリジナルCD制作において欠かせない基本的な技術、知識でイメージ通りの音の表現が出るよう根気よく取り組むこと								
成績評価の方法	・企業連携実習による課題提出評価・・・70% ・授業に取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/実習環境の確認/機材の基本操作
第2週	MIDIの基礎知識①:規格の概要とメッセージの種類
第3週	MIDIの基礎知識②:接続とデータ構造の理解
第4週	アナログシンセサイザーの知識①:減算合成と発音原理
第5週	アナログシンセサイザーの知識②:VCO・VCF・VCAの相関
第6週	アナログシンセサイザーの知識③:変調(LFO・EG)の応用
第7週	担当教員による実習前指導:アナログシンセの既習技術の総括
第8週	専門指導(サチオン):アナログシンセによる実践的音色制作
第9週	専門指導(サチオン):ハードウェアシンセの信号処理実務
第10週	デジタルシンセサイザーの知識①:サンプリングとPCM方式
第11週	デジタルシンセサイザーの知識②:FM方式およびその他の合成方式
第12週	デジタルシンセサイザーの知識③:エフェクト処理と音色の質感
第13週	前期実習課題制作:基本音色の構築と保存
第14週	前期まとめ/作品のブラッシュアップ
第15週	期末試験
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	マニピュレート実習 I B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 アナログおよびデジタルシンセサイザーの構造や音作りの原理、操作技術を理解し、楽曲に応じた音色設計ができる能力を養うとともに、DAW環境におけるMIDI制御や音源操作の技能を習得し、実践的な音楽制作力の向上を図るものである。</p> <p>【概要】 本授業ではアナログシンセサイザーの増幅や周波数変換の仕組みから始め、デジタル機器との違いを学習するものである。さらにDAW上でのMIDIコントロールやDTM音源の調整技術を実習形式で修得し、最終的に音色制作能力を総合的に高めるものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンセサイザーの知識・技術を修得する。</li> <li>・楽器の特性、曲に合った基本音色を作成できるようにする。</li> <li>・基本楽器の自身のイメージに合った音を的確に作成できるようにする。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	・DTM/DAWソフト、音源 各種シンセサイザー								
履修上の注意	・オリジナルCD制作において欠かせない基本的な技術、知識でイメージ通りの音の表現が出るよう根気よく取り組むこと								
成績評価の方法	・企業連携実習による課題提出評価・・・70% ・授業に取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/前期の復習と後期の目標確認
第2週	DAWソフト上でのMIDIコントローラー①:アサインの基礎
第3週	DAWソフト上でのMIDIコントローラー②:オートメーション操作
第4週	多チャンネルのDTM音源エディット①:マルチティンバーの構造
第5週	多チャンネルのDTM音源エディット②:リズムセクションの音色操作
第6週	多チャンネルのDTM音源エディット③:ベース・シンセ系の操作
第7週	担当教員による実習前指導:多チャンネル音源の調整技術解説
第8週	専門指導(サチオン):各種音色毎の高度な操作法と知識
第9週	専門指導(サチオン):実務に即したマルチエディット技術
第10週	多チャンネルのDTM音源エディット④:パッド・ストリングス系の表現
第11週	多チャンネルのDTM音源エディット⑤:FX・特殊音色のエディット
第12週	総合実習:オリジナル音色のレイヤー手法
第13週	後期実習課題制作:イメージ通りの音の表現と構築
第14週	後期まとめ/実習成果の講評
第15週	期末試験
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	楽器演奏実習A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	青木 大志			実務経験	ビックバンドジャズから演歌の伴奏まで多くのアーティストをベース奏者としてサポート。音楽教室で後進の指導にもあたる。又バックトラックの作成・アレンジ・楽譜作成のアーティストサポートでも活躍。これらの経験を活かし実践的な教育をする。				
目的/概要	<p>【目的】 デジタルミュージック制作に必要な基礎的楽器知識と演奏技術を習得し、各楽器の特性理解と演奏力の向上を図るとともに、理論と実技を結び付けた表現力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業ではギター、ベース、ドラム、キーボードの基礎練習やコード演奏、リズムトレーニングを行うものである。さらにアンサンブル演習を通して演奏力を高め、音楽制作への応用力を身に付けるものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験、未経験を問わずそれぞれの楽器を演奏できる様にする</li> <li>・音楽理論を楽器演奏に応用する</li> <li>・楽器演奏で学習したことをコンピュータ上で再現、応用できる様にする</li> <li>・アンサンブルを通してグループ活動による創造活動ができる様にする</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	・初歩的な読譜力								
使用教材	・ギター、ベース、ドラムの教則本 ・設備楽器 ・個人所有楽器使用可								
履修上の注意	・遊び的な感覚にならないように ・授業時間以外での練習の重要性								
成績評価の方法	・定期的な演奏試験・・・80% ・授業への取り組み姿勢・・・20%などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/使用楽器(ギター・ベース・ドラム・キーボード)の基礎知識と特性理解
第2週	基礎トレーニング①:ギター・ベースのスケール練習基礎/ドラムの基本リズム(8ビート)
第3週	基礎トレーニング②:主要コードの押弦と各楽器の役割/メトロノームを用いた同期
第4週	コードとベースライン①:ギター・キーボードのコード演奏とベースのルート弾き
第5週	コードとベースライン②:コード進行に基づく基本的なベースラインの構築法
第6週	メロディと伴奏①:キーボード・ギターによる簡単なメロディ演奏と伴奏の組み合わせ
第7週	メロディと伴奏②:リズムセクション(ドラム・ベース)を加えた土台作り
第8週	アンサンブル演習①:課題曲の選定とパート割り/各パートのフレーズ確認
第9週	アンサンブル演習②:低音域(ベース・ドラム)のコンビネーションと安定感の向上
第10週	アンサンブル演習③:コード楽器(ギター・キーボード)のボーイングと音量バランス
第11週	並行学習:高度なスケール練習の導入と16ビートのリズムトレーニング
第12週	楽曲制作への応用:演奏で得たニュアンスをコンピュータ上で再現する手法の検討
第13週	総合演習①:課題曲の通し練習/ダイナミクス(強弱)と表情付け
第14週	前期総括:演奏試験に向けた各パートの最終調整とブラッシュアップ
第15週	期末試験(基礎演奏技能および課題曲演奏)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	楽器演奏実習B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	青木 大志			実務経験	ビックバンドジャズから演歌の伴奏まで多くのアーティストをベース奏者としてサポート。音楽教室で後進の指導にもあたる。又バックトラックの作成・アレンジ・楽譜作成のアーティストサポートでも活躍。これらの経験を活かし実践的な教育をする。				
目的/概要	<p>【目的】 デジタルミュージック制作に必要な基礎的楽器知識と演奏技術を習得し、各楽器の特性理解と演奏力の向上を図るとともに、理論と実技を結び付けた表現力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業ではギター、ベース、ドラム、キーボードの基礎練習やコード演奏、リズムトレーニングを行うものである。さらにアンサンブル演習を通して演奏力を高め、音楽制作への応用力を身に付けるものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験、未経験を問わずそれぞれの楽器を演奏できるようにする</li> <li>・音楽理論を楽器演奏に応用する</li> <li>・楽器演奏で学習したことをコンピュータ上で再現、応用できるようにする</li> <li>・アンサンブルを通してグループ活動による創造活動ができるようにする</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	・初歩的な読譜力								
使用教材	・ギター、ベース、ドラムの教則本 ・設備楽器 ・個人所有楽器使用可								
履修上の注意	・遊び的な感覚にならないように ・授業時間以外での練習の重要性								
成績評価の方法	・定期的な演奏試験・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20%などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/前期の復習(スケール・リズム・コード)と後期の目標設定
第2週	基礎トレーニング③:多様なスケール(マイナー、ペンタトニック等)の実践練習
第3週	基礎トレーニング④:ドラムのシャッフル、16ビート等、高度なリズムトレーニング
第4週	コードとベースライン③:セブンスコードを用いたベースラインのバリエーション
第5週	コードとベースライン④:経過音やリズムのシンコペーションを取り入れたライン学習
第6週	メロディと伴奏③:より複雑な楽曲におけるメロディと伴奏の相互作用の理解
第7週	メロディと伴奏④:ソロパートの導入とアンサンブル内での音色的役割分担
第8週	アンサンブル演習④:応用課題曲の開始/グループ内での創造的なアレンジ検討
第9週	アンサンブル演習⑤:他パートの音を聴く能力の育成とグループ感の共有
第10週	アンサンブル演習⑥:ステージングを意識した演奏表現と楽器間バランスの微調整
第11週	並行学習:音楽理論(コード進行等)を楽器演奏に即時反映させる即興的アプローチ
第12週	応用実習:卒業ライブを想定したパフォーマンスと音響機材との連携確認
第13週	総合演習②:応用課題曲の完成度向上/演奏における一体感の追求
第14週	総合演習③:リハーサル形式による相互講評と最終仕上げ
第15週	期末試験(アンサンブル形式による演奏実技試験)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	キーボード実習 I A				企業連携	対象科目	授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	高橋 由利			実務経験	ピアノ教室および書道教室を主宰し、長年にわたり個別指導に従事。音楽教育の経験を活かし、キーボード演奏の基礎から表現力まで実践的な指導を行っている。				
目的/概要	<p>【目的】 音楽活動において重要なキーボード演奏技術を習得し、演奏力の向上を図るとともに、コンピュータミュージックにおける打ち込み作業を円滑に行うための基礎力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業では五線譜の読譜力を高めながら、ポピュラー楽曲を用いた演奏練習を行うものである。初心者は基礎技術の習得、経験者はさらなる技能向上を目指し、実践的な演奏力の強化を図るものである。</p>								
到達目標	・一般的なポピュラー楽曲の五線譜を観て初心者は中級レベル、経験者は更なるレベルアップし演奏できるようにする								
目標資格	特になし								
前提知識	ある程度の読譜力 音楽理論 出来れば演奏経験								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な楽譜(ポピュラー中心)</li> <li>・実習設備のシンセサイザー</li> </ul>								
履修上の注意	・気長にあせらず演奏能力を高めさせる								
成績評価の方法	・定期的な演奏試験・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/キーボードの基本構造と正しい姿勢
第2週	音階の基礎①:ハ長調スケールとドレミ(階名)での演奏
第3週	音階の基礎②:異なった調でのスケール練習と指使い
第4週	片手でのメロディー弾き①:基本リズムの把握
第5週	片手でのメロディー弾き②:ポピュラー楽曲のフレーズ練習
第6週	片手でのメロディー弾き③:跳躍を含むメロディへの対応
第7週	コードを覚える①:三和音(メジャー・マイナー)の構造理解
第8週	コードを覚える②:鍵盤での基本的な押さえ方(基本形)
第9週	コードを覚える③:主要三和音のコードチェンジ練習
第10週	両手での楽譜演奏①:左手ベース・右手メロディの同期
第11週	両手での楽譜演奏②:簡単な楽譜を用いた練習曲(1)
第12週	打ち込み作業を円滑に行うためのキーボード基礎練習
第13週	前期課題曲演習①:メロディとコードの整合
第14週	前期課題曲演習②:通し練習と表現の微調整
第15週	期末試験(基礎奏法および課題曲)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	キーボード実習 I B				企業連携	対象科目	授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	高橋 由利			実務経験	ピアノ教室および書道教室を主宰し、長年にわたり個別指導に従事。音楽教育の経験を活かし、キーボード演奏の基礎から表現力まで実践的な指導を行っている。				
目的/概要	<p>【目的】 音楽活動において重要なキーボード演奏技術を習得し、演奏力の向上を図るとともに、コンピュータミュージックにおける打ち込み作業を円滑に行うための基礎力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業では五線譜の読譜力を高めながら、ポピュラー楽曲を用いた演奏練習を行うものである。初心者は基礎技術の習得、経験者はさらなる技能向上を目指し、実践的な演奏力の強化を図るものである。</p>								
到達目標	・一般的なポピュラー楽曲の五線譜を観て初心者は中級レベル、経験者は更なるレベルアップし演奏できるようにする								
目標資格	特になし								
前提知識	ある程度の読譜力 音楽理論 出来れば演奏経験								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な楽譜(ポピュラー中心)</li> <li>・実習設備のシンセサイザー</li> </ul>								
履修上の注意	・気長にあせらず演奏能力を高めさせる								
成績評価の方法	・定期的な演奏試験・・・80% ・授業への取り組み姿勢・・・20% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/前期の復習と後期の到達目標確認
第2週	コードを覚える④:四和音(セブンスコード)の導入
第3週	コードを覚える⑤:転回形を用いたスムーズなコード進行
第4週	両手での楽譜演奏③:ポピュラー楽曲の楽譜を用いた読譜練習
第5週	両手での楽譜演奏④:リズムパターンを意識した伴奏付け
第6週	応用奏法①:アルペジオを用いた伴奏表現
第7週	応用奏法②:シンコペーションを含むリズムの同期
第8週	打ち込み効率アップのための実践的運指法
第9週	中級レベル楽曲への挑戦①:複雑な和音を含む楽譜の読解
第10週	中級レベル楽曲への挑戦②:強弱(ダイナミクス)の表現
第11週	総合実習①:自身のイメージに合わせた音色選択と演奏
第12週	総合実習②:課題曲の細部仕上げ
第13週	演奏能力向上演習:テンポキープと集中力の維持
第14週	後期まとめ:演奏の完成度向上と相互講評
第15週	期末試験(実技試験)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	ヴォイストレーニング演習 I A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	伊藤 優作			実務経験	ボーカリストとして活躍、自治体行政機関の講師、音楽教室主任講師、プロアーティスト育成機関トレーナーとしても活躍。これらの経験を活かし実践的な教育をする。				
目的/概要	<p>【目的】 発声の基礎を習得し歌唱力の向上を図るとともに、ソロボーカリストやコーラスとしての実践的な能力を養い、さらに聴音力を高め音楽活動における表現力と積極性を育成するものである。</p> <p>【概要】 本授業では視唱やイヤートレーニング、ヴォイストレーニングを継続的に実施するものである。加えてポピュラー楽曲の歌唱や耳コピーを行い、実践を通して歌唱力と音感の向上を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器演奏以上に重要な歌う力を持つ ソロボーカリストを目指す</li> <li>・バンドでのコーラス要員</li> <li>・耳コピーが出来るようになる</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度の読譜力 音楽理論 無くても可</li> </ul>								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴォイストレーニング用テキスト・キーボード ギターなどの楽器・ミキサーなどの音響機材</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声を出すことに積極的に取り組む</li> <li>・遊びと錯覚する可能性に対しての真剣な取り組み</li> <li>・卒業ライブのレベルアップを謀る</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/ヴォーカリストの心構え
第2週	邦楽ヒット曲の選曲と分析
第3週	呼吸法と声帯の仕組みの連動
第4週	邦楽歌唱:リズムとピッチの安定
第5週	耳コピー実践:メロディの音取り
第6週	筋力トレーニング(軟骨・口腔・舌腔)
第7週	邦楽歌唱:歌詞のニュアンス表現
第8週	コーラス基礎:ユニゾンとハーモニー
第9週	喉頭蓋および胸骨甲状筋の制御実習
第10週	邦楽歌唱:ダイナミクスの活用
第11週	耳コピー実践:フレーズの再現
第12週	邦楽歌唱:総合パフォーマンス練習
第13週	前期課題曲の最終ブラッシュアップ
第14週	前期まとめ:自己評価と講評
第15週	期末試験(発声および邦楽歌唱実技)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	ヴォイストレーニング演習 I B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	伊藤 優作			実務経験	ボーカリストとして活躍、自治体行政機関の講師、音楽教室主任講師、プロアーティスト育成機関トレーナーとしても活躍。これらの経験を活かし実践的な教育をする。				
目的/概要	<p>【目的】 発声の基礎を習得し歌唱力の向上を図るとともに、ソロボーカリストやコーラスとしての実践的な能力を養い、さらに聴音力を高め音楽活動における表現力と積極性を育成するものである。</p> <p>【概要】 本授業では視唱やイヤートレーニング、ヴォイストレーニングを継続的に実施するものである。加えてポピュラー楽曲の歌唱や耳コピーを行い、実践を通して歌唱力と音感の向上を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器演奏以上に重要な歌う力を持つ ソロボーカリストを目指す</li> <li>・バンドでのコーラス要員</li> <li>・耳コピーが出来るようになる</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度の読譜力 音楽理論 無くても可</li> </ul>								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴォイストレーニング用テキスト・キーボード ギターなどの楽器・ミキサーなどの音響機材</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声を出すことに積極的に取り組む</li> <li>・遊びと錯覚する可能性に対しての真剣な取り組み</li> <li>・卒業ライブのレベルアップを謀る</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/前期の復習
第2週	最新邦楽ヒット曲の歌唱研究
第3週	地声と裏声の切り替えの滑らかさ向上
第4週	耳コピー実践:高度なメロディライン
第5週	邦楽歌唱:独自の歌唱スタイルの探求
第6週	コーラス演習:複数パートの調和
第7週	筋力トレーニング(甲状軟骨・輪状軟骨)
第8週	邦楽歌唱:マイクテクニックの応用
第9週	耳コピー実践:バリエーションの習得
第10週	邦楽歌唱:ステージング基礎
第11週	卒業ライブを見据えた歌唱表現の検討
第12週	ロングトーンの安定と声量の最大化
第13週	後期課題曲の完成度向上
第14週	後期まとめ:歌唱力の進捗確認
第15週	期末試験(邦楽ヒット曲歌唱実技)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	音響システム演習A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 舞台音響および関連技術の基礎知識を習得し、現場で求められる音響操作や設営に対応できる能力を養うとともに、舞台機構調整技能検定合格を目指し、音響分野での就業機会の拡大を図るものである。</p> <p>【概要】 本授業では劇場や舞台に関する基礎知識、音響や照明、映像技術の概論を学習するものである。さらにホール音響の運用や関連法規について理解を深め、実務に即した知識と技能の習得を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台音響の知識を広く身につけ舞台設置、PA操作等の実際に活かす</li> <li>・舞台機構調整技能士合格を目指す</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台機構技能検定3級</li> </ul>								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台音響技術概論</li> <li>・実習設備</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器演奏実習、音響技術等で養った演奏能力、PA技術等の融合を促す</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な試験・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20% などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/舞台音響の目的と音響技術者の役割
第2週	劇場の基礎知識①:劇場の構造と舞台各部の名称
第3週	劇場の基礎知識②:舞台機構(吊り物・床機構)の仕組み
第4週	舞台美術の基礎:舞台装置の設営と安全管理
第5週	照明技術概論①:照明機材の種類と基本特性
第6週	照明技術概論②:色の三原色と舞台照明の演出効果
第7週	照明技術概論③:調光システムとDMXの基礎知識
第8週	ホール・劇場に関する法規①:消防法と火気使用の制限
第9週	ホール・劇場に関する法規②:興行場法および安全衛生法
第10週	ホール・劇場に関する法規③:著作権法と演奏・上映の権利
第11週	ホール音響基礎①:建築音響の特性(残響と吸音)
第12週	ホール音響基礎②:電気音響システムと信号の流れ
第13週	舞台におけるコミュニケーション:インカムの使用と連絡体制
第14週	前期まとめ:舞台・照明・法規の総合復習
第15週	期末試験(前期理論試験)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	音響システム演習B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 舞台音響および関連技術の基礎知識を習得し、現場で求められる音響操作や設営に対応できる能力を養うとともに、舞台機構調整技能検定合格を目指し、音響分野での就業機会の拡大を図るものである。</p> <p>【概要】 本授業では劇場や舞台に関する基礎知識、音響や照明、映像技術の概論を学習するものである。さらにホール音響の運用や関連法規について理解を深め、実務に即した知識と技能の習得を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台音響の知識を広く身につけ舞台設置、PA操作等の実際に活かす</li> <li>・舞台機構調整技能士合格を目指す</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台機構技能検定3級</li> </ul>								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台音響技術概論</li> <li>・実習設備</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器演奏実習、音響技術等で養った演奏能力、PA技術等の融合を促す</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な試験・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20% などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/前期の復習と後期の目標確認
第2週	映像技術概論①:映像信号の規格(解像度・フレームレート)
第3週	映像技術概論②:プロジェクターとLEDディスプレイの特性
第4週	映像技術概論③:スイッチングと舞台演出への応用
第5週	ホール音響の運用①:仕込み図の読み方と回線表の作成
第6週	ホール音響の運用②:舞台設置(スピーカー・マイク)の実践
第7週	ホール音響の運用③:チューニングとハウリング対策
第8週	舞台機構調整技能士対策①:筆記試験過去問題演習(理論)
第9週	舞台機構調整技能士対策②:筆記試験過去問題演習(実務知識)
第10週	音響・照明・映像の統合:マルチメディア演出の同期手法
第11週	現場実習①:コンサートホールとライブハウスの運用比較
第12週	現場実習②:小規模演劇における音響・照明の連携
第13週	トラブルシューティング:舞台現場での事故防止と応急処置
第14週	後期まとめ:実務に即した知識の総点検
第15週	期末試験(後期理論・実力試験)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	音響技術実習 I A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 ミキサーや音響機材の基礎知識と操作技術を習得し、ライブ実習やDTM制作において適切な音響操作が行える能力を養うとともに、現場に対応できる実践力の基盤を構築するものである。</p> <p>【概要】 本授業ではアナログおよびデジタルミキサーの仕組みやエフェクターの接続方法を学習するものである。さらに機材接続や音出し、ミキシング実習を通して理解を深め、ライブ形式の演習により実践的な音響技術の習得を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BGM+マイク1本程度のバランス取りを確実にこなせるようになる。</li> <li>・機材接続において、入力から出力までの流れを理解できるようにする。</li> <li>・2年生ライブ実習において全体の流れを把握できるようにする。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台機構技能検定3級</li> </ul>								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナログミキサー デジタルミキサー マイクロフォン ライブ実習機材 その他音響機器</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器等のレコーディングに関しては2年次に必要に応じて1年次には基本的に行わない。</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な実技試験・・・70% ・授業への取り組み姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/音響技術者の役割/基本的なハード・ソフト名称の習得
第2週	機材接続の基礎知識①:入力から出力までの信号の流れ(シグナルフロー)
第3週	機材接続の基礎知識②:各種ケーブルとコネクタの名称と取り扱い
第4週	教室機材説明①:アナログミキサーの基本構造と各セクションの役割
第5週	アナログミキサー実習①:ゲイン調整とヘッドホンの監視方法
第6週	アナログミキサー実習②:イコライザーとパンポットによる音質・定位操作
第7週	エフェクターの基礎①:エフェクターの種類と基本的な接続方法(インサート・センド)
第8週	エフェクターの基礎②:リバーブ・ディレイ等の基本的な音出し確認
第9週	教室機材説明②:デジタルミキサーの仕組みと基本操作
第10週	音出し実習①:BGMとマイク1本を用いた基本的なバランス取り
第11週	音出し実習②:ハウリングの原理と基本的な対策方法
第12週	ライブ実習準備:中間ライブに関する役割説明とスタッフ編成
第13週	中間ライブ実習①:PA機材の設営と回線チェック
第14週	中間ライブ実施:各役割に基づくライブ運営の実践
第15週	期末試験(基本操作および接続実技)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	音響技術実習 I B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 ミキサーや音響機材の基礎知識と操作技術を習得し、ライブ実習やDTM制作において適切な音響操作が行える能力を養うとともに、現場に対応できる実践力の基盤を構築するものである。</p> <p>【概要】 本授業ではアナログおよびデジタルミキサーの仕組みやエフェクターの接続方法を学習するものである。さらに機材接続や音出し、ミキシング実習を通して理解を深め、ライブ形式の演習により実践的な音響技術の習得を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BGM+マイク1本程度のバランス取りを確実にできるようにする。</li> <li>機材接続において、入力から出力までの流れを理解できるようにする。</li> <li>2年生ライブ実習において全体の流れを把握できるようにする。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台機構技能検定3級</li> </ul>								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アナログミキサー デジタルミキサー マイクロフォン ライブ実習機材 その他音響機器</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器等のレコーディングに関しては2年次に必要に応じ行い1年次には基本的に行わない。</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な実技試験・・・70% ・授業への取り組み姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/前期の復習と後期の目標確認
第2週	マイクrophonの基礎知識:ダイナミックとコンデンサーの使い分け
第3週	スピーカーの基礎知識:パッシブとアクティブの違いと設置法
第4週	ミキシング実習①:DTMデータを用いた基本的なミキシング演習
第5週	ミキシング実習②:エフェクトを活用した空間演出技術
第6週	デジタルミキサー応用①:シーンメモリーとルーティングの設定
第7週	デジタルミキサー応用②:ライブ実習に向けたセッティングの構築
第8週	卒業ライブへの取り組み①:全体の流れの把握とPAチームの連携確認
第9週	卒業ライブへの取り組み②:出演バンドのセット図の読解と準備
第10週	PA操作習得①:モニター(中音)バランスの作り方
第11週	PA操作習得②:ハウリング抑制と音圧管理の実践
第12週	卒業ライブ直前演習①:サウンドチェックおよびリハーサル
第13週	卒業ライブ直前演習②:トラブル対応と機材撤収の手順
第14週	卒業ライブ実習:PA操作等を通じた現場実務の習得
第15週	期末試験(ミキシングおよびPA実務)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	音楽理論A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 作曲および編曲を自立して行うために必要な音楽理論の基礎知識を習得し、音楽制作や演奏活動において応用できる力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業では音部記号や音名、音程、調と音階、コード構成、テンションなどを学習するものである。さらにダイアトニックコードや調関係、楽曲分析を通して理論理解を深め、実践的な応用力の習得を目指すものである。</p>								
到達目標	音楽活動においてオリジナル曲の作曲、編曲を独自に行える 音楽の知識の基礎を学ぶ								
目標資格	特になし								
前提知識	小・中学校レベルの音楽の知識、無くとも可								
使用教材	・新音楽理論ワークブック								
履修上の注意	・音楽理論を疎かにすると独自の曲作りがパターン化するので難しくても根気よく知識を習得し、尚且つ知識だけに終わらせず実践に活かす。								
成績評価の方法	・定期的考査・・・80% ・日ごろの授業態度・・・20% を総合的に判断								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/音部記号と音名:五線譜の基本と記号の理解
第2週	音程の理解①:度数の数え方と完全・長短音程の基本
第3週	音程の理解②:増減音程、単音程と複音程、音程の転回
第4週	調と音階①:メジャースケールの構造と調号(五度圏)
第5週	調と音階②:マイナースケール(自然・和声・旋律的短音階)
第6週	コードの構成①:三和音(トライアード)の成り立ちと種類
第7週	コードの構成②:四和音(セブンスコード)の構成と名称
第8週	ダイアトニック・コード①:メジャーキーにおける和音の機能(T・SD・D)
第9週	ダイアトニック・コード②:マイナーキーにおける和音の役割
第10週	調・音階とコードの関連:スケール上のコード配置の確認
第11週	テンション①:テンションノートの基礎知識とアベイラブルテンション
第12週	コード進行①:主要三和音による基本進行とドミナント進行
第13週	メロディー作り①:コードトーンに基づいた旋律の構築
第14週	前期総括:基本理論の反復演習と理解度の総点検
第15週	期末試験
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	音楽理論B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 作曲および編曲を自立して行うために必要な音楽理論の基礎知識を習得し、音楽制作や演奏活動において応用できる力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業では音部記号や音名、音程、調と音階、コード構成、テンションなどを学習するものである。さらにダイアトニックコードや調関係、楽曲分析を通して理論理解を深め、実践的な応用力の習得を目指すものである。</p>								
到達目標	音楽活動においてオリジナル曲の作曲、編曲を独自に行える 音楽の知識の基礎を学ぶ								
目標資格	特になし								
前提知識	小・中学校レベルの音楽の知識、無くとも可								
使用教材	・新音楽理論ワークブック								
履修上の注意	・音楽理論を疎かにすると独自の曲作りがパターン化するので難しくても根気よく知識を習得し、尚且つ知識だけに終わらせず実践に活かす。								
成績評価の方法	・定期的考査・・・80% ・日ごろの授業態度・・・20% を総合的に判断								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/前期の復習と後期の目標確認
第2週	平行調と同主調関係:調の親和性と借用和音の導入,
第3週	コード進行②:代理コードの活用と典型的なコード進行パターン,
第4週	テンション②:ボイスニングへのテンション配置とテンションリゾルブ,
第5週	コードスケール①:ダイアトニックコードに基づくスケール選択,
第6週	コードスケール②:セカンダリードミナント等に対応するスケール
第7週	楽曲分析(アナライズ)①:既存ポピュラー楽曲の和声構造分析,
第8週	楽曲分析(アナライズ)②:メロディの音の跳躍と順次進行の分析,
第9週	メロディーへのコード付け①:既存の旋律に対する基本的な和声選択
第10週	メロディーへのコード付け②:リハーモナイズの基礎的な手法
第11週	作曲理論の応用①:楽曲の形式(2部形式、3部形式等)と構成
第12週	作曲理論の応用②:モチーフの発展とフレーズの連結
第13週	総合演習①:理論を実践に活かす小作品の制作演習
第14週	総合演習②:作品の発表と相互アナライズによる講評
第15週	期末試験
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

デジタルミュージック科

2年

科目名	就職対策ⅡA				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 就職試験対策と職場の人間関係に必要な「一般常識」を学び、就職活動支援を目的とする。</p> <p>【概要】 ・エントリーシート、履歴書記入演習 ・ 作文、論文演習</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望業種別或いは志望企業向けのエントリーシート及び履歴書作成の演習を行い就職への意識向上を図り、受験企業に提出する履歴書が書ける。</li> <li>・作文と論文を書く演習を通して、実際の試験でのテーマの絞込み、時間配分などを身に付け、具体的な論作文が書ける。</li> <li>・入退社から応対、言葉使いなど、演習を通じて面接に必要な知識を身につけ、実際の面接で「自分を自然に表現」出来るように行動できる。</li> <li>・面談を通して、就職の意義、情報提供、活動状況を共有し、内定を得る。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	常に就職への意識を持って授業に取り組むこと								
成績評価の方法	・一般常識実力試験…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンスと就職活動の全体像および直近スケジュールの確認
第2週	自己分析と志望業界・職種の最終整理
第3週	履歴書・エントリーシートの最終確認とブラッシュアップ
第4週	面接対策① 基本マナーと頻出質問の最終確認
第5週	面接演習① 個別面接形式による実践練習
第6週	面接演習② 志望動機・自己PRの完成度向上
第7週	内定者向け基礎① 社会人マナーと職場理解
第8週	就職活動継続者向け対策① 面接・書類の個別指導
第9週	内定者向け基礎② 報連相とコミュニケーション
第10週	就職活動継続者向け対策② 実践面接演習
第11週	内定者向け応用① ケーススタディによる課題理解
第12週	就職活動継続者向け対策③ 企業別対策と弱点克服
第13週	内定者向け応用② 社会人としての行動計画作成
第14週	総合演習(内定者・継続者別対応による最終調整)
第15週	期末試験(面接実技またはレポート評価)

科目名	就職対策ⅡB				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 就職試験対策と職場の人間関係に必要な「一般常識」を学び、就職活動支援を目的とする。</p> <p>【概要】 ・エントリーシート、履歴書記入演習 ・ 作文、論文演習</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>志望業種別或いは志望企業向けのエントリーシート及び履歴書作成の演習を行い就職への意識向上を図り、受験企業に提出する履歴書が書ける。</li> <li>作文と論文を書く演習を通して、実際の試験でのテーマの絞込み、時間配分などを身に付け、具体的な論作文が書ける。</li> <li>入退社から応対、言葉使いなど、演習を通じて面接に必要な知識を身につけ、実際の面接で「自分を自然に表現」出来るように行動できる。</li> <li>面談を通して、就職の意義、情報提供、活動状況を共有し、内定を得る。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	常に就職への意識を持って授業に取り組むこと								
成績評価の方法	・一般常識実力試験…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	就職活動状況の共有と後期目標設定
第2週	企業研究の深化と志望動機の再構築
第3週	面接対策応用(個別・集団・オンライン対応)
第4週	面接演習③ 実践形式による応用トレーニング
第5週	作文・論文応用(時間配分と構成力強化)
第6週	作文・論文演習② 本試験形式での実践
第7週	内定者向け実務① ビジネスマナー実践と職場適応
第8週	就職活動継続者向け対策④ 面接・書類の強化指導
第9週	内定者向け実務② コミュニケーションとチームワーク
第10週	就職活動継続者向け対策⑤ 実践面接演習
第11週	内定者向け実務③ 業務理解とケーススタディ
第12週	就職活動継続者向け対策⑥ 個別課題の克服
第13週	内定者向け総合演習(社会人準備の最終確認)
第14週	総括(就職活動振り返りと社会人移行準備)
第15週	期末試験(レポート提出または面談評価)

科目名	オリジナルミュージック制作実習ⅡA				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	6	総授業時間	180	単位	6
担当教員	村山 秀樹		実務経験	専門学校音楽分野において30年にわたり指導に従事。本年より講師として、長年培った教育経験と専門知識を活かし、後進の育成および実践的な指導に取り組む。					
目的/概要	<p>【目的】 2年間で習得した音楽理論および制作技術を総合的に活用し、オリジナル作品の完成を通して実践的な音楽制作力を確立し、映像や多様なメディアに対応できる表現力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業ではオリジナル楽曲制作を中心に、録音・編集・ミキシングを含む制作工程を実践的に学習するものである。さらにCD制作や卒業ライブに向けた作品制作を行い、総合的な音楽制作能力の集大成を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間で学んだ音楽知識やソフト、キーボード、ギターその他楽器などの実習で体得した楽器演奏やボーカルを加えたオリジナル楽曲製作の集大成としてCDアルバムの製作を行う</li> <li>・各学科等制作作品に合ったオリジナル曲作り制作</li> <li>・卒業ライブでの演奏曲の作詞、作曲、編曲制作</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	・1年次で学んだ音楽理論 作編曲知識 DTM知識 音響技術 楽器演奏 バンド活動 歌唱力								
使用教材	・PRO TOOLS SOL その他楽曲制作のための各種ソフト ・各音楽作成機器 ・各楽器								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間を通じて制作作業を続けないと達成が難しい</li> <li>・いろいろな優秀な機材を駆使して満足の行く作品が出来上がるのは努力が伴うので努力をしその喜びも学ぶ</li> </ul>								
成績評価の方法	・定期的な作品提出・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/2年間の集大成としての制作計画策定/環境設定
第2週	Pro Tools操作習得①:高度なエディット機能とショートカットの習熟
第3週	Pro Tools操作習得②:ミキシング・ルーティングとバスの活用
第4週	課題楽曲制作①:提示されたテーマに基づくリズムセクションの構築
第5週	課題楽曲制作②:コードワークとメロディの緻密なブラッシュアップ
第6週	作詞・作曲共作実習①:コンビ結成と楽曲コンセプトの策定
第7週	作詞・作曲共作実習②:歌詞の構成とメロディの親和性の追求
第8週	映像同期楽曲制作①:映像のインポートとタイムコードの同期
第9週	映像同期楽曲制作②:シーンに合わせたサウンドデザインとBGM制作
第10週	並行制作実習①:課題楽曲の最終ミキシングと修正
第11週	並行制作実習②:共作楽曲のデモ音源制作とブラッシュアップ
第12週	映像同期楽曲制作③:効果音(MA)と音楽のバランス調整
第13週	CDアルバム制作準備:収録楽曲の選定と全体の構成案作成
第14週	前期まとめ:制作進捗の確認とプレゼンテーション
第15週	期末試験(前期制作作品の提出および実技考査)
※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。	

科目名	オリジナルミュージック制作実習ⅡB				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	6	総授業時間	180	単位	6
担当教員	村山 秀樹		実務経験	専門学校音楽分野において30年にわたり指導に従事。本年より講師として、長年培った教育経験と専門知識を活かし、後進の育成および実践的な指導に取り組む。					
目的/概要	<p>【目的】 2年間で習得した音楽理論および制作技術を総合的に活用し、オリジナル作品の完成を通して実践的な音楽制作力を確立し、映像や多様なメディアに対応できる表現力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業ではオリジナル楽曲制作を中心に、録音・編集・ミキシングを含む制作工程を実践的に学習するものである。さらにCD制作や卒業ライブに向けた作品制作を行い、総合的な音楽制作能力の集大成を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間で学んだ音楽知識やソフト、キーボード、ギターその他楽器などの実習で体得した楽器演奏やボーカルを加えたオリジナル楽曲製作の集大成としてCDアルバムの製作を行う</li> <li>・各学科等制作作品に合ったオリジナル曲作り制作</li> <li>・卒業ライブでの演奏曲の作詞、作曲、編曲制作</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	・1年次で学んだ音楽理論 作編曲知識 DTM知識 音響技術 楽器演奏 バンド活動 歌唱力								
使用教材	・PRO TOOLS SOL その他楽曲制作のための各種ソフト ・各音楽作成機器 ・各楽器								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間を通じて制作作業を続けないと達成が難しい</li> <li>・いろいろな優秀な機材を駆使して満足の行く作品が出来上がるのは努力が伴うので努力をしその喜びも学ぶ</li> </ul>								
成績評価の方法	・定期的な作品提出・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/後期制作スケジュールの確認と目標設定
第2週	Pro Tools操作習得③:外部機材・実機エフェクトとの連携
第3週	課題楽曲制作③:応用的なアレンジとサウンドの差別化
第4週	映像同期楽曲制作④:映像の展開に合わせたダイナミクス制御
第5週	作詞・作曲共作実習③:生楽器・ボーカルのレコーディング実践
第6週	作詞・作曲共作実習④:共作ならではの独自の表現の追求
第7週	CDアルバム制作実習①:全楽曲のトーン・バランスの調整
第8週	CDアルバム制作実習②:アルバムの流れを意識した曲間設定
第9週	卒業ライブ対策:演奏曲の作詞・作曲・編曲・同期データ制作
第10週	高度なミキシング:Pro Toolsによるオートメーションの徹底活用
第11週	マスタリング実習:アルバム全体の音圧と質感の最終調整
第12週	CDアルバム完結:DDP作成およびパッケージングの最終確認
第13週	総合演習①:映像同期作品の最終仕上げとMA作業
第14週	総合演習②:2年間の集大成としての作品集最終確認
第15週	期末試験(卒業制作CDアルバムおよび最終課題作品の提出)
※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。	

科目名	作編曲演習ⅡA				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p><b>【目的】</b> 1年次に習得した音楽理論および制作技術を基に、作曲・編曲を自立して行える応用力を養い、音楽制作や演奏活動において独自性のある作品を創出できる実践的能力を育成するものである。</p> <p><b>【概要】</b> 本授業では既存曲の分析やアレンジ、オリジナル楽曲制作を通して作編曲技術を実践的に学習するものである。さらにコンピュータを活用した制作と演奏を連動させ、より高度な表現力と創造力の向上を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が正しい知識を身につけ、オリジナル性溢れる楽曲を制作、演奏し生涯にわたりそれぞれの分野で充実した活動が行える為の基盤作りをする</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>音階 調性 三和音(トライアード)程度の基礎知識</li> </ul>								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践コード・ワーク</li> <li>各楽器</li> <li>DTM/DAWソフト</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>理論を知識として身に付けるだけでなく実際の現場で役に立つようにする</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な考査・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/1年次の作編曲基礎の復習と2年次の目標設定
第2週	各種楽器の基礎知識①:弦楽器の音域、特性、奏法と編曲上の留意点
第3週	各種楽器の基礎知識②:管楽器(木管・金管)の移調とセクションの構築
第4週	各種楽器の基礎知識③:打楽器の種類とリズムセクションにおける役割
第5週	音楽スタイル研究①:ジャズの語法とコードボイスの基礎
第6週	音楽スタイル研究②:ラテン音楽(ボサノヴァ、サンバ等)のリズムと構造
第7週	アレンジ実習①:ソロから小編成への展開手法
第8週	アレンジ実習②:中規模アンサンブルにおける対旋律とハーモナイズ
第9週	デジタルとヒューマンの融合①:打ち込みデータに生演奏のニュアンスを加える手法
第10週	オリジナル曲の作曲・編曲①:バンド演奏を想定した楽曲コンセプト策定
第11週	オリジナル曲の作曲・編曲②:リードシートの作成とDAWでのデモ制作
第12週	楽曲分析:ポピュラー音楽における高度な転調と楽曲構成の検討
第13週	中間発表演習:制作途中のオリジナル楽曲の講評とブラッシュアップ
第14週	前期まとめ:実務現場で役立つ作編曲技術の総括
第15週	期末試験(前期課題作品の提出と筆記考査)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	作編曲演習ⅡB				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 1年次に習得した音楽理論および制作技術を基に、作曲・編曲を自立して行える応用力を養い、音楽制作や演奏活動において独自性のある作品を創出できる実践的能力を育成するものである。</p> <p>【概要】 本授業では既存曲の分析やアレンジ、オリジナル楽曲制作を通して作編曲技術を実践的に学習するものである。さらにコンピュータを活用した制作と演奏を連動させ、より高度な表現力と創造力の向上を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自が正しい知識を身につけ、オリジナル性溢れる楽曲を制作、演奏し生涯にわたりそれぞれの分野で充実した活動が行える為の基盤作りをする</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>音階 調性 三和音(トライアード)程度の基礎知識</li> </ul>								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践コード・ワーク</li> <li>各楽器</li> <li>DTM/DAWソフト</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>理論を知識として身に付けるだけでなく実際の現場で役に立つようにする</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な考査・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/前期の成果と卒業制作に向けた課題の確認
第2週	ビッグバンドアレンジ①:サクソ、ブラス、リズムのセッションライティング
第3週	ビッグバンドアレンジ②:大編成における密集配分と乖離配分の使い分け
第4週	ビッグバンドアレンジ③:トウツィの構築とダイナミクスの制御
第5週	音楽スタイル研究③:ファンク、フュージョン等における高度なリズムアレンジ
第6週	デジタルとヒューマンの融合②:シンセサイザーと生楽器の共存による音響設計
第7週	オリジナル曲の作曲・編曲③:卒業ライブに向けたバンド用フルスコアの作成
第8週	オリジナル曲の作曲・編曲④:DAWソフトを用いた高品質な音源制作
第9週	実践アレンジ:既存曲を全く異なる音楽スタイルへ再構築する演習
第10週	オーケストレーションの応用:シンセ音源を用いたオーケストラサウンドの構築
第11週	プロダクション実習:レコーディングを想定したパート譜の精度向上
第12週	総合演習①:オリジナル楽曲の最終ミキシングと仕上げ
第13週	総合演習②:バンド演奏とDAW作品の最終プレゼンテーション準備
第14週	2年間の総括:作編曲家としての独自のスタイルの確立
第15週	期末試験(卒業制作作品の提出と実技考査)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	マニピュレート実習ⅡA				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 1年次に習得したシンセサイザーの基礎知識を発展させ、音色設計の応用力を高め、楽曲や表現意図に応じた音作りを自立して行える能力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業ではシンセサイザーの応用的な仕組みや音作りの技術を実践的に学習するものである。さらに多様な音色制作演習を通して、楽曲に適した音色やイメージに沿ったサウンドを構築する力の向上を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の特性、曲に合った音色を作成できるようにする。</li> <li>・自分のイメージに合った音を的確に作成できるようにする。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	・DTM/DAWソフト、音源 各種シンセサイザー								
履修上の注意	・卒業CD制作においてイメージ通りの音の表現が出るよう根気よく取り組む								
成績評価の方法	・定期的な作品提出・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/1年次の復習と応用範囲の確認
第2週	各種シンセサイザーの仕組み①:物理モデリング・ウェーブテーブル
第3週	各種シンセサイザーの仕組み②:グラニューラー・加算合成
第4週	機種によるシンセサイザーの違い①:主要メーカーの設計思想
第5週	機種によるシンセサイザーの違い②:操作体系と特性の比較
第6週	高度なデータ作成方法①:緻密なアーティキュレーション制御
第7週	担当教員による実習前指導:応用技術の説明とプロジェクト設計
第8週	専門指導(サチオン):プロ現場での音色設計と最適化
第9週	専門指導(サチオン):最新機材を用いた高度なマニピュレート
第10週	高度なデータ作成方法②:システムエクスクルーシブの活用
第11週	複数の楽器を使用したデータの作成①:アンサンブル構築の基礎
第12週	複数の楽器を使用したデータの作成②:帯域と定位の調整
第13週	前期実習作品制作:高度な音色を用いたシーケンス構築
第14週	前期まとめ/作品の品質評価
第15週	期末試験
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	マニピュレート実習ⅡB				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 1年次に習得したシンセサイザーの基礎知識を発展させ、音色設計の応用力を高め、楽曲や表現意図に応じた音作りを自立して行える能力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業ではシンセサイザーの応用的な仕組みや音作りの技術を実践的に学習するものである。さらに多様な音色制作演習を通して、楽曲に適した音色やイメージに沿ったサウンドを構築する力の向上を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器の特性、曲に合った音色を作成できるようにする。</li> <li>・自分のイメージに合った音を的確に作成できるようにする。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	・DTM/DAWソフト、音源 各種シンセサイザー								
履修上の注意	・卒業CD制作においてイメージ通りの音の表現が出るよう根気よく取り組む								
成績評価の方法	・定期的な作品提出・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/卒業CD制作のスケジュール確認
第2週	波形データにしてからの音色作成①:リサンプリングと再加工
第3週	波形データにしてからの音色作成②:オーディオエフェクトの応用
第4週	MIDIデータと波形データのミックス①:タイミングと位相管理
第5週	MIDIデータと波形データのミックス②:ハイブリッド環境の構築
第6週	MIDIデータと波形データのミックス③:ステムの質感調整
第7週	担当教員による実習前指導:CD制作の手順と基礎知識
第8週	専門指導(サチオン):商業レベルの音響仕上げ技術
第9週	専門指導(サチオン):マスタリングにおける音圧と音質の制御
第10週	CD製作の仕方①:DDPマスターの作成とフォーマット理解
第11週	CD製作の仕方②:プレス工程とジャケットデザインの仕様
第12週	卒業CD制作実習①:最終ミキシングと微調整
第13週	卒業CD制作実習②:ファイナライズ作業
第14週	2年間の学習総括/最終作品発表会
第15週	期末試験
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	バンドアンサンブル実習A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	3	総授業時間	90	単位	3
担当教員	青木 大志			実務経験	ビックバンドジャズから演歌の伴奏まで多くのアーティストをベース奏者としてサポート。音楽教室で後進の指導にもあたる。又バックトラックの作成・アレンジ・楽譜作成のアーティストサポートでも活躍。これらの経験を活かし実践的な教育をする。				
目的/概要	<p><b>【目的】</b> 複数のバンド演奏を通して楽器の表現力や編曲力、グルーブ感を向上させ、総合的な音楽性を高めるとともに、実践的な演奏能力と協働による創造力を養うものである。</p> <p><b>【概要】</b> 本授業では複数の編成でバンド演奏を行い、楽器や役割を変えながら実践的に学習するものである。アンサンブルを通して表現力や編曲力を高め、総合的な音楽活動能力の向上を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器演奏実習やボーカ尔特レーニング・作編曲能力の知識を生かしバンドを組み表現し総合音楽性向上を図り創造活動ができるようになる</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	初歩的な読譜力 音楽理論 楽器演奏 コミュニケーション能力								
使用教材	キーボード ギター ベース ドラム その他楽曲表現に必要な楽器・ミキサーなどの音響機材								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バンドは共同作業なので自己意見を押し付けず他の人とのコミュニケーションを円滑にはかる</li> <li>・一つの楽器だけに固執せず複数の楽器で演奏する</li> <li>・既存楽曲のコピーは練習用としオリジナル曲や既存楽曲の独自の編曲を發表しないと意味が 無い</li> <li>・メンバーの真剣な取り組み 各バンドの卒業ライブでの聴衆を魅了するレベルを期待</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な演奏・・・20%</li> <li>・卒業ライブでの演奏・・・20%</li> <li>・授業への取り組む姿勢・・・60% を総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/バンド編成の決定/音楽室・スタジオの使用方法和マナー
第2週	既存楽曲の分析①: 楽曲構造の把握と各パートの役割再確認
第3週	既存楽曲の分析②: リズムセクションとコード楽器の相互作用
第4週	既存楽曲の再編成①: 編成変更に伴う音の厚みとバランスの検討
第5週	既存楽曲の再編成②: スタジオでのセッションを通した編成の試行錯誤
第6週	既存楽曲の再編成①: リズムパターンの変更によるジャンル・改変
第7週	既存楽曲の再編成②: ハーモニーのリハーモナイズとテンションの活用
第8週	スタジオ演習①: 再編曲楽曲の初合奏と課題の抽出
第9週	スタジオ演習②: 他パートの音を聴き、グルーブを一致させる訓練
第10週	スタジオ演習③: 特定のセクション(イントロ・間奏・アウトロ)の構築
第11週	コミュニケーション演習: メンバー間の意見交換と合意形成の円滑化
第12週	総合演習①: 既存曲の独自編曲版の通し演奏とブラッシュアップ
第13週	総合演習②: 演奏におけるダイナミクスと表情付けの追求
第14週	前期総括: 演奏の完成度向上と相互講評
第15週	期末試験(既存楽曲の再編曲による演奏実技試験)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	バンドアンサンブル実習B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	3	総授業時間	90	単位	3
担当教員	青木 大志			実務経験	ビックバンドジャズから演歌の伴奏まで多くのアーティストをベース奏者としてサポート。音楽教室で後進の指導にもあたる。又バックトラックの作成・アレンジ・楽譜作成のアーティストサポートでも活躍。これらの経験を活かし実践的な教育をする。				
目的/概要	<p>【目的】 複数のバンド演奏を通して楽器の表現力や編曲力、グルーブ感を向上させ、総合的な音楽性を高めるとともに、実践的な演奏能力と協働による創造力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業では複数の編成でバンド演奏を行い、楽器や役割を変えながら実践的に学習するものである。アンサンブルを通して表現力や編曲力を高め、総合的な音楽活動能力の向上を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器演奏実習やボーカ尔特レーニング・作編曲能力の知識を生かしバンドを組み表現し総合音楽性向上を図り創造活動ができるようになる</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	初歩的な読譜力 音楽理論 楽器演奏 コミュニケーション能力								
使用教材	キーボード ギター ベース ドラム その他楽曲表現に必要な楽器・ミキサーなどの音響機材								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バンドは共同作業なので自己意見を押し付けず他の人とのコミュニケーションを円滑にはかる</li> <li>・一つの楽器だけに固執せず複数の楽器で演奏する</li> <li>・既存楽曲のコピーは練習用としオリジナル曲や既存楽曲の独自の編曲を發表しないと意味が 無い</li> <li>・メンバーの真剣な取り組み 各バンドの卒業ライブでの聴衆を魅了するレベルを期待</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な演奏・・・20%</li> <li>・卒業ライブでの演奏・・・20%</li> <li>・授業への取り組む姿勢・・・60% を総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/後期の目標設定/卒業ライブに向けたスケジュール確認
第2週	オリジナル曲の編成①:楽曲コンセプトと必要な楽器構成の策定
第3週	オリジナル曲の編成②:各自の得意楽器を活かしたパート割り
第4週	オリジナル曲の編成①:メロディに対する伴奏スタイルの検討
第5週	オリジナル曲の編成②:楽曲展開(構成)の設計と繋ぎの工夫
第6週	スタジオ演習④:オリジナル曲のデモ演奏とアンサンブルの微調整
第7週	卒業ライブ対策①:ライブ演奏曲の選定とセットリストの構築
第8週	卒業ライブ対策②:オリジナル曲と既存曲のバランス調整
第9週	スタジオ演習⑤:ライブを想定したステージングと音響機材の活用
第10週	編曲の最終調整:対旋律の追加やキメのフレーズの緻密化
第11週	総合演習③:卒業ライブ形式でのリハーサル演習(1)
第12週	総合演習④:卒業ライブ形式でのリハーサル演習(2)
第13週	最終調整:聴衆を魅了するレベルへのパフォーマンス向上
第14週	2年間の総括:バンドアンサンブルによる創造活動の振り返り
第15週	期末試験(卒業ライブ形式による最終演奏試験)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	キーボード実習ⅡA				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	高橋 由利			実務経験	ピアノ教室および書道教室を主宰し、長年にわたり個別指導に従事。音楽教育の経験を活かし、キーボード演奏の基礎から表現力まで実践的な指導を行っている。				
目的/概要	<p>【目的】 1年次に習得したキーボード演奏の基礎を発展させ、演奏力および表現力の向上を図るとともに、打ち込み作業の効率化を実現し、実践的な音楽活動に対応できる能力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業ではポピュラー楽曲を用いた演奏練習を発展的に行うものである。さらにバンドアンサンブルや卒業ライブを見据えた実践的な演奏を通して技能を高め、打ち込み技術の向上と総合的な演奏力の強化を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾けない生徒もある程度の演奏能力を持たせる 経験者は更なるレベルアップ</li> <li>・「打ち込み」の作業効率アップ</li> <li>・卒業ライブでの演奏能力アップ</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	1年次の演奏技術、知識経験								
使用教材	・一般的な楽譜(ポピュラー中心) ・設備キーボード								
履修上の注意	・気長にあせらず演奏能力を高めさせる ・授業時間外の練習の重要性 ・卒業ライブのレベルアップに繋げる								
成績評価の方法	・定期的な演奏試験・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20%などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/2年次の演奏技術目標と楽曲選択の指針
第2週	音階・コードの応用:各種スケール(モード・ペンタトニック等)の練習
第3週	アドリブ基礎①:スケールに基づいた簡単なメロディ崩し
第4週	アドリブ基礎②:コードトーンを意識したフレーズ作成
第5週	個人演奏能力アップ①:各自選んだ曲の分析と練習計画策定
第6週	個人演奏能力アップ②:苦手箇所の重点的テクニカル練習
第7週	個人演奏能力アップ③:楽曲のスタイル(ジャンル)に合わせた奏法研究
第8週	バンドのキーボード奏者養成①:シンセサイザー音色の使い分け
第9週	バンドのキーボード奏者養成②:バックিংとリードの役割分担
第10週	楽譜による演奏発展:より高度なピアノ・キーボードスコアの読解
第11週	打ち込み作業の効率化:リアルタイム入力の精度向上
第12週	中間発表形式による各自選んだ曲の演奏確認
第13週	作品の表現力強化:ペダル操作やアーティキュレーションの追求
第14週	前期総括:演奏における独自性の発揮
第15週	期末試験(個別選択曲の演奏試験)
※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。	

科目名	キーボード実習ⅡB				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	高橋 由利			実務経験	ピアノ教室および書道教室を主宰し、長年にわたり個別指導に従事。音楽教育の経験を活かし、キーボード演奏の基礎から表現力まで実践的な指導を行っている。				
目的/概要	<p>【目的】 1年次に習得したキーボード演奏の基礎を発展させ、演奏力および表現力の向上を図るとともに、打ち込み作業の効率化を実現し、実践的な音楽活動に対応できる能力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業ではポピュラー楽曲を用いた演奏練習を発展的に行うものである。さらにバンドアンサンブルや卒業ライブを見据えた実践的な演奏を通して技能を高め、打ち込み技術の向上と総合的な演奏力の強化を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾けない生徒もある程度の演奏能力を持たせる 経験者は更なるレベルアップ</li> <li>・「打ち込み」の作業効率アップ</li> <li>・卒業ライブでの演奏能力アップ</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	1年次の演奏技術、知識経験								
使用教材	・一般的な楽譜(ポピュラー中心) ・設備キーボード								
履修上の注意	・気長にあせらず演奏能力を高めさせる ・授業時間外の練習の重要性 ・卒業ライブのレベルアップに繋げる								
成績評価の方法	・定期的な演奏試験・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20%などを中心に総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/卒業ライブに向けたスケジュール確認
第2週	アンサンブル演習①:バンド内での音の帯域調整と定位の理解
第3週	アンサンブル演習②:他パートの音を聴きながらのタイミング調整
第4週	卒業ライブ対策①:ライブ演奏曲の選定とパート譜の作成
第5週	卒業ライブ対策②:楽曲の構成(イントロ・ソロ・アウトロ)のアレンジ
第6週	卒業ライブ対策③:ステージでのパフォーマンスと音響設定の確認
第7週	応用アドリブ:楽曲の展開に応じたソロ演奏の実践
第8週	打ち込み技術の集大成:制作曲におけるキーボードパートの最適化
第9週	アンサンブル演習③:グループ内での演奏のグループ感の追求
第10週	卒業ライブ対策④:ライブ形式でのリハーサルと課題抽出
第11週	卒業ライブ対策⑤:聴衆を魅了するための表現技法の確認
第12週	個人演奏能力の最終仕上げ:各自選んだ曲の完成度向上
第13週	総合演習:全演奏曲の通し稽古とステージングの最終調整
第14週	2年間の総括:キーボード奏者としての自己評価と講評
第15週	期末試験(卒業ライブを見据えた実技試験)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	ヴォイストレーニング演習ⅡA				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	伊藤 優作			実務経験	ボーカリストとして活躍、自治体行政機関の講師、音楽教室主任講師、プロアーティスト育成機関トレーナーとしても活躍。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。				
目的/概要	<p>【目的】 1年次に習得した発声および歌唱の基礎を発展させ、ソロボーカリストおよびコーラスとしての表現力を高めるとともに、高度な聴音力を養い音楽活動における実践力を向上させるものである。</p> <p>【概要】 本授業ではヴォイストレーニングや視唱、イヤートレーニングを継続的に行うものである。さらにポピュラー楽曲の歌唱や耳コピーを発展的に実施し、歌唱力と音感の向上および表現力の強化を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器演奏以上に重要な歌う力を持つ ソロボーカリストを目指す バンドでのコーラス要員</li> <li>歌う事によっての積極性の向上</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度の読譜力 音楽理論 出来れば楽器演奏</li> </ul>								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーカルトレーニング用テキスト ・キーボード ギターなどの楽器 ・ミキサーなどの音響機材</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声を出すことに消極的な生徒への対策 ・遊びと錯覚する可能性に対しての真剣な取り組み</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/2年次の目標設定
第2週	英語の曲の歌唱①:発音とリズム
第3週	個人の歌唱力アップ:弱点克服指導
第4週	英語の曲の歌唱②:洋楽特有のグルーブ
第5週	耳コピー発展:洋楽フレーズの解析
第6週	コーラス演習:洋楽パートの構成
第7週	個人の歌唱力アップ:表現の幅の拡大
第8週	英語の曲の歌唱③:感情表現の深化
第9週	耳コピー発展:高度なコーラスライン
第10週	コーラス演習:リードとのバランス調整
第11週	個人の歌唱力アップ:ヴォイストレーニング応用
第12週	英語の曲の歌唱④:総合仕上げ
第13週	前期課題曲(英語曲)の最終ブラッシュアップ
第14週	前期まとめ:2年次の歌唱指針の確立
第15週	期末試験(英語曲歌唱および実技評価)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	ヴォイストレーニング演習ⅡB				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	伊藤 優作			実務経験	ボーカリストとして活躍、自治体行政機関の講師、音楽教室主任講師、プロアーティスト育成機関トレーナーとしても活躍。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。				
目的/概要	<p>【目的】 1年次に習得した発声および歌唱の基礎を発展させ、ソロボーカリストおよびコーラスとしての表現力を高めるとともに、高度な聴音力を養い音楽活動における実践力を向上させるものである。</p> <p>【概要】 本授業ではヴォイストレーニングや視唱、イヤートレーニングを継続的に行うものである。さらにポピュラー楽曲の歌唱や耳コピーを発展的に実施し、歌唱力と音感の向上および表現力の強化を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器演奏以上に重要な歌う力を持つ ソロボーカリストを目指す バンドでのコーラス要員</li> <li>歌う事によっての積極性の向上</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度の読譜力 音楽理論 出来れば楽器演奏</li> </ul>								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーカルトレーニング用テキスト ・キーボード ギターなどの楽器 ・ミキサーなどの音響機材</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声を出すことに消極的な生徒への対策 ・遊びと錯覚する可能性に対しての真剣な取り組み</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/卒業ライブ対策の全体スケジュール確認
第2週	卒業ライブ曲の選定と歌唱プラン
第3週	コーラス演習:ライブ全編のハーモニー
第4週	卒業ライブ対策:ソロパートの完成度向上
第5週	卒業ライブ対策:ステージパフォーマンス練習
第6週	コーラス演習:メンバー間の一体感追求
第7週	個人の歌唱力アップ:ライブに向けた持久力強化
第8週	卒業ライブ対策:MCと歌のシームレスな連携
第9週	コーラス演習:音響環境下でのバランス調整
第10週	卒業ライブ対策:リハーサル形式の演習(1)
第11週	卒業ライブ対策:リハーサル形式の演習(2)
第12週	コーラス演習:最終微調整
第13週	卒業ライブに向けたトータルチェック
第14週	2年間の総括:ヴォーカリストとしての確立
第15週	期末試験(卒業ライブ形式による最終実技試験)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	音響技術実習ⅡA				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 1年次に習得した音響機材の基礎知識を発展させ、レコーディングおよび編集に関する実践的技術を習得し、音源制作に対応できる音響技術者としての能力を養うものである。</p> <p>【概要】 本授業ではCD制作に必要なレコーディング技術およびProToolsの操作方法を学習するものである。ステレオおよびマルチトラック録音、編集作業を実践的に行い、音源制作に必要な総合的な音響技術の習得を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステレオソースのレコーディングが行えるようにする。</li> <li>・マルチトラックレコーディングが行えるようにする。</li> <li>・ProToolsを使用した編集を行えるようにする。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DTM/DAWソフト、音源 ProTools マイクロフォン オーディオインターフェース</li> <li>デジタル・アナログミキサー その他音響機器</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業CD制作においてイメージ通りの音の表現が出るよう根気よく取り組むこと</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な実技試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/レコーディングの基本知識とスタジオマナー
第2週	レコーディング技術①:ステレオソースの録音手法
第3週	レコーディング技術②:マルチトラックレコーディングの理論と構成
第4週	教室機材説明(レコーディング)/ProToolsシステムの基本構成
第5週	ProTools実習①:セッションの作成と基本設定
第6週	ProTools実習②:基本操作(録音・再生・編集)の習得
第7週	ProTools実習③:DTMデータのインポートと録音準備
第8週	レコーディング実習①:マイクを使ったボーカル・楽器の録音(1)
第9週	レコーディング実習②:マイクを使ったボーカル・楽器の録音(2)
第10週	マルチトラック録音実習①:リズムセクションの同時録音
第11週	マルチトラック録音実習②:ダビング手法による重ね録り
第12週	波形編集実習:不要な音のカット、クロス調整、ピッチ補正の基礎
第13週	前期実習成果の集計とバックアップ管理
第14週	前期まとめ:レコーディングフローの総復習
第15週	期末試験(ProTools操作実技および録音理論)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	音響技術実習ⅡB				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	酒井 淳			実務経験					
目的/概要	<p><b>【目的】</b> 1年次に習得した音響機材の基礎知識を発展させ、レコーディングおよび編集に関する実践的技術を習得し、音源制作に対応できる音響技術者としての能力を養うものである。</p> <p><b>【概要】</b> 本授業ではCD制作に必要なレコーディング技術およびProToolsの操作方法を学習するものである。ステレオおよびマルチトラック録音、編集作業を実践的に行い、音源制作に必要な総合的な音響技術の習得を目指すものである。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステレオソースのレコーディングが行えるようにする。</li> <li>・マルチトラックレコーディングが行えるようにする。</li> <li>・ProToolsを使用した編集を行えるようにする。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DTM/DAWソフト、音源 ProTools マイクロフォン オーディオインターフェース</li> <li>デジタル・アナログミキサー その他音響機器</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業CD制作においてイメージ通りの音の表現が出るよう根気よく取り組むこと</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な実技試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/卒業CD制作に向けた全体スケジュール策定
第2週	高度なProTools操作①:プラグインエフェクトによる音色加工
第3週	高度なProTools操作②:オートメーションを用いた緻密な調整
第4週	卒業CD制作実習①:録音済み素材のトラックダウン基礎
第5週	卒業CD制作実習②:音量バランスと音像定位の最適化
第6週	卒業CD制作実習③:楽曲のスタイルに応じた空間系処理
第7週	卒業CD制作実習④:複数楽曲の質感の統一
第8週	マスタリング基礎①:マスタリングの目的と使用ツールの理解
第9週	マスタリング基礎②:最終的な音圧調整とEQ補正
第10週	CD製作実習①:トラック間の間隔設定とPQ編集
第11週	CD製作実習②:マスターデータ(DDP等)の書き出しとチェック
第12週	卒業ライブに向けた音響サポート:録音音源のライブ活用検討
第13週	制作プロジェクトの完結:CDパッケージングと完成作品提出
第14週	2年間の総括:音響技術者としての自己評価と講評
第15週	期末試験(トラックダウン・マスタリング成果物の評価)
<p>※学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	